

1. はじめに

昭和61年4月に社団法人・繊維学会の中にジオテキスタイル研究委員会が設立された。設立の趣旨は、繊維・土木・建築の関連研究者相互の討論と研究の交流をはかり、学際領域と考えられるジオテキスタイル、ジオメンブレン、ジオグリッドおよびその他の土木建築材料分野の一層の発展に資することを目的としている。

委員長は清水敬二氏（長岡技術科学大学）でメンバーは産官学界から15名が参加して発足した。以来6年を経てメンバーも年々増え、現在では個人43名、法人15社に達している。委員会の主な活動は、研究討論会、講演会、見学会である。

2. 活動状況

本委員会は10名の運営委員が幹事を中心にして、年間の事業計画を作り運営されている。研究討論会は年4～5回、講演会は年1～2回開催される。また見学会は、年2回を目標に実施されている。これまでに行われた現場見学会の主なものは次のものである。

建設省土木研究所、建築研究所、運輸省港湾技術研究所、鉄道総合技術研究所、関西国際空港建設現場、羽田沖埋立現場、明石海峡架橋現場、トンネル工事現場

この委員会が発足当初から重点的にとりあげたテーマは、ジオテキスタイルの標準化である。昭和61年の第1回研究会でジオテキスタイルの測定法をテーマにとり上げた。そこで我が国では、ジオテキスタイルの試験方法が確立されていないこと、海外ではISOを初めとして米、英、独、仏等で規格化が着々と進んでいるとの現状を認識した。昭和63年に試験法の検討方針を作製し、3つのステップで検討を進めることにした。ステップⅠ、Ⅱはジオテキスタイルの基本的な物性、ステップⅢはジオテキスタイルに特有の特性（透水性土中の引抜き抵抗等）である。以後、国内外の試験法について調査し、その問題点を検討した。平成1～3年に基本物性について試験方法規格化原案を作製した。この原案は、昨年度に発足した工業技術院のジオテキスタイルのJIS原案作製委員会の原案にも反映されている。

今後、ジオテキスタイルの試験方法で、まだ検討中の試験項目について、他の関係学協会とも連撃しながら、規格化を推進していく計画である。